

# タイ語母語話者初級日本語学習者の「聞き返し」 ストラテジーの使用と有効性について

テンチャローン・モンルタイ

## 1. 研究動機

筆者は、来日当初に「聞き返し」が上手くできずに困った体験をした思い出が多々あるが、周りの外国人からも同じような話をよく耳にすることがあった。例えば、「聞き返し」が上手くいかずに聴解上の問題が解決できなかつたり、問題が解決できたとしても、何度も聞き返すことによって相手に不快感を与えてしまったり、会話のスムーズさを欠いてしまったりなどである。日本語の教室で「聞き返し」の使用についてほとんど勉強したことがなかったので、「聞き返し」をしたくても適切な「聞き返し」の表現が頭に浮かばず、どのように「聞き返し」をすればいいのか、戸惑ってしまうことが多かった。

このことから日本語学習者にとって上手な「聞き返し」を行うことの大切さや重要性、その難しさを痛感し、本研究で取り上げることにした。

## 2. 先行研究

### 2.1 「聞き返し」ストラテジーの定義

本研究では、尾崎（1992：252）に従い、聞き返しストラテジーについて、「相手の話が聞き取れない、分からないという問題に直面し、それを解消するために相手に働きかける方略」と定義している。

### 2.2 先行研究で明らかにされた点

初級学習者の「聞き返し」の発話意図と表現形式について、尾崎（1992）は学習者が使用している「聞き返し」の発話意図と表現形式の分類を示し、初級学習者は動詞型、名詞型の普通型を使用することが多いと報告している。また、福間（1994）は聞き返しの表現形式について、日本語を習い始めたばかりの学習者は沈黙型を使用することが多いと報告している。そして、学習者の聞き返しの効果に関して、猪狩（1998）は、コミュニケーション・ストラテジーの中で学習者は「聞き返し」を最も頻繁に使用しているが、問題の解決には至らないと指摘している。

### 2.3 先行研究で残された課題

- ①タイ語母語話者学習者の「聞き返し」ストラテジーの使用についてまだ明らかにされていない。
- ②学習者が発話意図に適した表現形式を使用しているかについては考察されていない。
- ③フォローアップ・インタビューを行った研究は少ない。

## 3. 研究目的及び研究課題

先行研究を踏まえた上で、本研究ではJSLタイ語母語話者初級学習者の「聞き返し」ストラテジーの使用実態と有効性を明らかにすることを目的とする。そのために以下の二つの研究課題を設けた。

研究課題1 学習者はどのような「聞き返し」ストラテジーを使用しているのか。

- 1-1 どのような発話意図で聞き返しを使用しているのか。
- 1-2 どのような表現形式で聞き返しを使用しているのか。

研究課題2 学習者は「聞き返し」の発話意図に合わせてどのような表現形式を使用しているか。またそれは効果的なのか。

## 4. 研究方法

### 4.1 データ

JSL初級学習者、日本人大学生それぞれ15名ずつ、計15組の電話会話を約15分間録音した。会話の課題は「タイの観光」について日本人が学習者に質問をするという場面を設定した。その際に、聞き返しを引き出すために学習者が知らない単語を使用してもらった。例えば、タイの通貨、時差、観光地、宿泊施設などである。

### 4.2 「聞き返し」の分類

「聞き返し」の表現形式と発話意図について、以下の楊に分類した。

#### 4.2.1 「聞き返し」の表現形式の分類

尾崎 (1993) (2001)、猪狩(1996)、福間 (1994)を参考にし、聞き返しの発話意図を以下のように分類した。

- ① エコー型：相手の発話を反復する。  
例：経験？、経験ですか？、けい。。
- ② エコー+ $\alpha$ 型：反復に他の表現が付いている。  
例：経験って何ですか？
- ③ 非エコー型：反復以外の表現である。  
例：もう一度言って下さい、え？、はい？

#### 4.2.2 聞き返しの発話意図の分類

本研究では尾崎 (1992) の分類を参考にし、聞き返しの発話意図を以下のように6つに分類した。

- 1)反復要求：学習者が日本人の発話が聞き取れなかった時に日本人に聞き取れなかった発話を反復してもらうように要求する。  
例：もう一度言って下さい。
- 2)聞き取り確認要求：発話の聞き取りに自信が持てなかった時に確認を要求する。  
例：お坊さんですか？
- 3)理解確認要求：発話に対する理解に自信を持てなかった時に確認を要求する。  
例：古い建物ですか？
- 4)説明要求：発話を理解できなかった時にその発話に対する説明を要求する。  
例：治安って何ですか？
- 5)反復要求・説明要求：発話意図が聞き取れず語句の意味も理解できないため、反復してもらった上に、さらに、語句の意味も説明してもらうように要求する。  
例：え？何ですか？
- 6)聞き取り確認・説明要求：発話に対して聞き取りに自信が持てず、意味も分からないため、聞き取りの確認と語句の意味の説明の両方を要求する。  
例：通貨ですか？意味は何ですか？

#### 4.3 分析方法

各研究課題の分析方法は以下の通りである。

研究課題 1-1 では、文字化した会話のデータから学習者の「聞き返し」と思われるところを抽出して、フォローアップ・インタビューで上記の聞き返しの発話意図の分類を参考にし、学習者に「聞き返し」の発話意図を確認し、「聞き返し」の発話意図とそれぞれの使用回数を調べた。

研究課題 1-2 では、上記の「聞き返し」の表現形

式を参考にし、学習者が使用する「聞き返し」の表現形式とそれぞれの使用回数を調べた。

研究課題 2 では、学習者がどの発話意図でどの表現形式を使用しているのかを調べた。そして、学習者が使用している「聞き返し」ストラテジーが効果的なのかを調べるために、学習者の「聞き返し」の発話意図に対する日本人の応答が適切であるかどうかを「聞き返し」の成否の判断基準とした。

以下では、「聞き返し」の成否の判断基準の例を示す。

- 97 J8 タイは屋台とかいっぱいありますか。  
98 T8 ①屋台。(説明要求)  
99 J8 はい。→失敗  
100 T8 ②屋台。(説明要求)  
101 J8 屋台。→失敗  
102 T8 ③屋台はなんですか？(説明要求)  
103 J8 家の外でなんかお店みたいな、ご飯を食べるところ。→成功  
104 T8 あーはい。たくさんあります。

97で日本人は「タイは屋台とかいっぱいありますか」と質問をしたが、タイ人は屋台という言葉が分からないため、98で「屋台」という言葉のみを使って聞き返しを行なった。しかし、これに対して日本人は説明要求の「聞き返し」ではなく確認要求の「聞き返し」だと思ったため、99で「はい」と確認をした。このため、1回目の聞き返しは失敗であると見なした。次に、タイ人は101でもう一度「屋台」といって、2回目で聞き返しをしたが、日本人はそれに対してまた確認を行ったため、この「聞き返し」も失敗であると見なした。この後、タイ人は102で「屋台は何ですか」と3回目で説明要求の聞き返しをした。それに対して、日本人は103で「家の外でなんかお店みたいな、ご飯を食べるところ。」と説明を行ったため、この聞き返しは成功であると見なした。この例のように、聞き返しは全部で3回行われたが、聞き返しが2回失敗し、1回成功したとみなした。

## 5. 結果と考察

### 5.1 研究課題 1-1 の結果

学習者がどのような発話意図で「聞き返し」を使用しているのかを調べた結果、学習者の聞き返しは全部で329回行われ、その中で、説明要求の発話意

図の使用回数が 155 回で、一番多いことが分かった。次に使用回数を多い順番から見ると、聞き取り確認要求、反復要求、理解確認要求、反復・説明要求、聞き取り確認・説明要求という順番となっている。しかし、成功率を見ると、聞き取り確認要求と理解確認要求以外の発話意図はどの発話意図でも成功率が低かったことが分かった。

## 5.2 研究課題 1-2 の結果

「聞き返し」の表現形式について使用率を高い順から見ると、一番高かったのはエコー型 53%、その次は非エコー型 37%、最後はエコー+α型 10% という順番になっている。しかし、成功率を見ると、最も使用頻度の高いエコー型の成功率が 56.8 %と低かったため、全体の成功率が 60.1%と低い結果となった。

## 5.3 研究課題 2 の結果

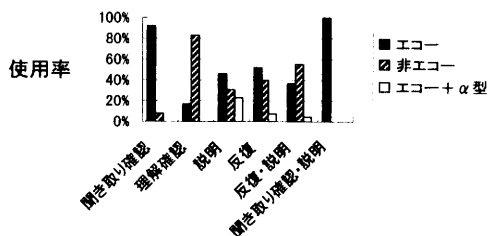


図 1 発話意図ごとに使用された表現形式の成功率

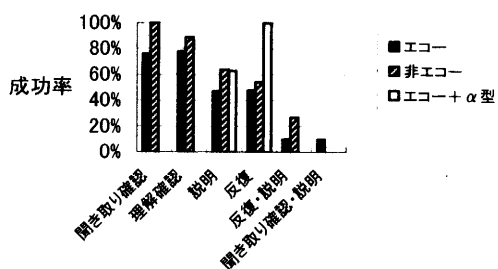


図 2 発話意図ごとに使用された表現形式の成功率

学習者は「聞き返し」の発話意図に合わせてどのような表現形式を使用しているのかを調べた結果、図 1 の発話意図ごとに使用された表現形式の使用率を見ると、理解確認要求と反復・説明要求以外の発話意図はエコー型の使用率が一番高いことが分かった。しかし、図 2 の発話意図ごとに使用された表現形式の成功率を見ると、エコー型の成功率

が低かったことが分かる。特に、説明要求、反復要求の成功率が 50%以下であり、反復・説明要求と聞き取り確認・説明要求という発話意図が 2 つある場合は成功率がわずかに 10%であった。

以上の結果について見てみると、学習者が自分の「聞き返し」の発話意図に適した表現形式を使用することができず、エコー型を多用していたことが明らかになった。しかし、エコー型の聞き返しは成功率が低いので、その結果、全体の「聞き返し」の成功率が低くなった。そのことから、本研究では学習者が「聞き返し」ストラテジーを効果的に使用できていないと考えられる。

次は学習者がエコー型をしたため、「聞き返し」があまりうまく行かなかった例を取り上げてみたい。注：例にある J は日本人、T は学習者を示す。また、下線の部分は注目した学習者の「聞き返し」、( ) 内は聞き返しの発話意図、→は「聞き返し」の成否を示す。

例 1) 説明要求の場合

15 J6 タイと日本の時差はどのぐらいですか？

16 T6 時差。(説明要求)

17 J6 時差。→失敗

18 T6 時差。(説明要求)

19 J6 時差。→失敗

20 T6 (笑) 分かりませんね。(説明要求)

21 J6 あ一分かりません。ええと、じゃ、タイの通貨は何ですか？

フォローアップ・インタビューでは、T6 は時差という言葉の意味がわからないので、J6 に説明を要求するために、16 と 18 で「時差」と反復して聞き返しを行った。しかし、J6 はそれが聞き取り確認要求だと思ったため、言葉の意味を説明せずに、「時差」と反復して確認を行なった。T6 は 16 と 18 の聞き返しが失敗したため、20 で「分かりませんね。」と言ってもう一度説明を要求したが、J6 は T6 が時差の意味がわからないのではなく、タイと日本の時差が何時間なのか分らないと思ったため、次の質問に移った。

この例のように学習者がエコー型の「聞き返し」を使用した場合は、日本人は学習者が「反復」または「聞き取り確認」を要求していると解釈することが多いため、言葉の意味を説明するのではなく、反復や確認を行う場合が多く見られた。このことから、

T6 が時差という言葉の意味を説明してもらいたい場合は、「時差」という言葉を反復するだけではあまり効果的ではないと考えられる。この場合は、「時差って何ですか」または「時差の意味はわかりません」などの明示的な表現形式を使用すればもっと効果的であったと考えられる。

#### 例 2) 反復要求の例

180 J9 タイではエステとかマッサージとかそういうものは何かいいものがありますか？

181 T9 マッサージ。(反復要求)

182 J9 はい、マッサージ。→失敗

183 T9 マッサージ。(反復要求)

185 J9 はい。→失敗

186 T9 すみません、もう一度お願いします。(反復要求)

187 J9 マッサージで何がいいものありますか？  
→成功

188 T9 私はマッサージしたことがないので、ちょっとわからない。

189 J9 あーそうなんです。

T9 は J9 の 181 の発話で「タイでエステとかマッサージとか」というところまで聞き取れたが、その後の文が聞き取れなかったため、182 で「マッサージ」と言う言葉を反復して反復要求の聞き返しを行なった。しかし、J9 はそれを「反復要求」ではなく、「理解確認要求」だと解釈したので、発話した文を反復せずに「はい、マッサージ」と答え、確認を行った。T9 は J9 から反復をしてもらえなかったため、184 でもう一度「マッサージ」とエコーして聞き返しを行ったが、それに対しても、J9 はまた「はい」と答えて確認を行ったため、T9 は 186 で「すみません、もう一度お願いします。」と再度聞き返した。この 3 度目の聞き返しははっきりと発話意図が J9 に伝わったため、J9 が 187 で自分の質問を反復しました。

この例のように学習者が 181 の発話が聞き取れなかった時に、聞き取れた部分をエコーして聞き返しを行ったため、自分が相手に反復してもらいたい意図が相手に伝わらなかった場合が多く見られた。発

話意図が聞き取れなかった時に、エコー型ではなく、187 のように「すみません、もう一度お願いします」または「もう一度言って下さい」のような明示的な表現を使用することが望ましいと考えられる。

## 6. まとめ及び今後の課題

本研究では学習者は「聞き返し」の発話意図に適した表現形式が上手く使用できていないため、「聞き返し」ストラテジーが成功しない場面が多く見られた。学習者が「聞き返し」ストラテジーをうまく使用できるようになるためには「聞き返し」の発話意図に合った表現形式を指導することが必要であると考えられる。また、「聞き返し」ストラテジーを成功させるためには、学習者側の努力だけでなく、日本人側の協力も必要不可欠なので、日本人に学習者が使用している「聞き返し」ストラテジーに対する認識を深めてもらうことが大切である。

今後は学習者の「聞き返し」ストラテジーの分析の範囲をさらに広げて行っていく必要がある。また、学習者の「聞き返し」ストラテジーに対して、日本人はどのような応答をしているのかについてより具体的に考察し、学習者と日本人の間の相互行為をさらに考慮したいと考えている。

### 参考文献

- 猪狩美保 (1998) 「オーラル・テストに見られるコミュニケーション・ストラテジーに関する一考察」『横浜国立大学留学生センター紀要』第 5 号、5-14
- 尾崎明人 (1992) 「聞き返し」のストラテジーと日本語教育」『日本語研究と日本語教育』251-263、名古屋大学出版会
- 尾崎明人 (1993) 「接触場面の訂正ストラテジー—『聞き返し』の発話交換をめぐって—」『日本語教育』第 81 号、19-30
- 尾崎明人 (2001) 「接触場面における在日ブラジル人の「聞き返し」とその回避方略」『社会言語科学』4 (1)、81-90
- 福間康子 (1994) 「口答試験にみるコミュニケーション・ストラテジー—聞き返しの表現形式とその応答について—」『九州大学留学生センター紀要』第 6 号、1-13